

しるし

しるしと奇跡

イスラエルの民は、エジプトの出来事を、祭儀の中で、特に種なしパンの祭りにおいて、繰り返し思い起こしていました。「あなたはこの日、自分の子供に告げなければならぬ。『これは、わたしがエジプトを出たとき、主がわたしのために行われたことのゆえである』と。」

このように、イスラエルの民はエジプトの出来事を思い起こしながら、近い将来、神さまがしるしと奇跡

によって、自分たちの理想の国を実現されると期待していました。

神さまからのしるし

ヨハネによる福音書では、五千人に食べ物を与える物語の最後に、自分なりの解釈をのせています。この物語は、ただ単に過去に生きたイエスさまの偉大な行動を伝えたものではなく、現代でも起こりうる出来事として受けとめることが大切なのです。過去のイエスさまではなく、現代に生きているイエスさまの姿をとらえる必要があるのです。

神さまから私たちにへの呼びかけとしての「しるし」

は、私たちのまわりの身近なところにあります。ところが、たいていの場合**は見すごしてしまっている**のです。神さまからのしるしは、ほとんどの人が**気づかない**うちに示されているのです。

大げさなことではなく、さりげなくイエスキリストはしるしを行なっているのです。人々の**気づかない**うちにしるしが行なわれ、ごく一部の**人たちだけが**それをしるしとして受けとめていくのです。これが神さまからのしるしなのです。

神さまから、どんなしるしを受けているか**考えて**、次の空白に書いて下さい。

